

令和元年度 宮崎西小学校 学校関係者評価（自己評価書及び学校関係者評価書）

1 学校の教育目標

「豊かな人間性を持ち、自ら学び きたえる児童の育成」

2 学校経営ビジョン

『元気』を全ての基礎として、「子ども」が夢や希望をもつ学校、「職員」が自信をもって教育する学校、「保護者」が信頼を寄せる学校、「地域社会」が共に見守る学校を目標にして学校経営にあたる。その土台の基に、ふるさとを愛し、自分に自信と誇りをもって、将来に向かって力強く『生き抜いていく力』を身に付けた児童を育成する。

3 本年度の重点目標：「学力の育成」

- 1 思考力の育成
授業において次の姿を目標とする
「よく考え、話したり、書いたりして 自分の気持ちや考えを相手に伝える力をつける」
- 2 基礎学力の育成
基礎的事項の徹底を図る。

4 評価基準について

5：非常に良い状況 4：比較的良い状況 3：標準的な状況 2：改善の余地がある状況 1：改善が必要な状況

5 外部評価及びコメント（ご意見）

		評価指標		自己評価	外部評価	評価委員のコメント（ご意見）
1	学力向上	重点目標におけるPDCAサイクルの確立	重点目標振り返り会を通して日常の取組を振り返り、PDCA サイクルを意識した取組の工夫改善が図られている。	3.7	4 3 4 4 5 4 3 3.9	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎月の重点目標振り返り会や児童相互の評価活動をカリキュラムマネジメントに位置付けるなど、極めて効果的な取組と評価したい。 ○ 教師・児童ともに重点目標に対する意識の高まりが見られたり、授業改善につなげたりするなど、その効果を積極的に評価したい。 ○ 振り返り会を重ねて先生方や児童の変容を確認することで、確実に重点目標に近づいていくのだと思う。
		思考力・表現力の育成	カリマネ表をもとにした計画的・意図的な指導は児童の思考力・表現力の向上につながっている。	3.7	4 3 4 4 5 4 3 3.9	<ul style="list-style-type: none"> ○ カリキュラムマネジメント表が効果的に活用され、重点目標の達成の意識化に成功し、児童の思考力・表現力の向上に成果が見られたことは大いに評価したい。 ○ 児童自身の努力も大切ですが、先生方がいかに魅力的な授業を展開していくかが、思考力や表現力の向上につながるのだと思う。 ◇ 短歌等で、児童の興味・関心をもたせながら、思考力・表現力を高める取組はどうだろうか。
		基礎的・基本的な内容の定着	朝の学習の時間や放課後こつこつ学習は児童の基礎的・基本的内容の定着につながっている。	3.9	4.2 3 4 4 5 4 3 3.9	<ul style="list-style-type: none"> ○ 朝や放課後の時間を活用した短時間のドリル学習、プリント学習が効果を上げている。これは、短時間の繰り返し学習が、児童の集中力を高めることを物語っている。 ○ 管理職も含めて全職員で取り組んでいることが、またワンチームとして高く評価できる。 ○ 教師も手ごたえを感じ取り、今後も継続したいとの意欲から見ても評価は、4.2程度でもよいと思う。 ○ 「こつぐんノート」がなくなったのは良かったと思う。 ○ 15分学習は、短い時間に集中してやる力を身に付けるのにうってつけの学習だと思います。「継続は力なり」教材の準備など、先生が大変だと思うが、ぜひ続けてほしい。

					<ul style="list-style-type: none"> ○ 数回、こつこつ学習に入った。児童が意欲的に取り組む姿が増えて学習することが楽しいと感じているのではと思われる。 ○ 基礎学力の定着は、短時間で継続することが重要だと思うので、年間を通じて計画的に取り組まれたことは成果を得られていると思われる。 ○ こつこつ学習は、15分でよいのだろうか。すぐに終わってしまうが、子どもたちの集中力の限界なのだろう。子どもたちにとって役に立つ15分間にしてほしい。 ◇ 宿題についてはポイント制などではなく、量より質の評価をお願いします。 ● 宿題を忘れた児童に、昼休みにそれをさせるのはいかがなものか。 ● 週末や連休の宿題が多い。 	
4	授業改善	県・市の授業改善の視点やスーパーティーチャーの実践を参考に授業改善に取り組み、出力のある授業が展開されている。	3.5	<p>4 3 4 4 5 4 3</p> <p>3.9</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学力向上に向けた重点目標達成のためにカリキュラムマネジメント表と重点目標振り返り会、短時間のドリル学習・プリント学習が、授業改善に大きな効果をもたらしたものと高く評価したい。 ○ 授業中の先生方の言葉がけは児童の主体性を大切にされたものが多く、児童が授業に意欲的に取り組んでいる様子が伺えた。 ◇ 保護者のアンケートでは、問2「児童の活動時間の保証」と問3「自分なりに考える」の項目で大きく変化している。これはどう評価すべきか。 ● 学校の自己評価が3.5と低いのはなぜだろうか。「負担感」をもつとすれば、それは乗り越える努力こそ必要と指摘したい。 	
5	いじめ防止	生徒指導に関する組織的対応	いじめ防止基本方針に従い、全職員がチームとなり組織的な対応をするとともに家庭、地域、関係機関等と連携していじめ防止に取り組んでいる。	4.3	<p>4.1 3 4 4 5 4</p> <p>4.0</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ この項目では、サポートチームを作り「チームで対応した」ことが、教師のスキルアップと自信につながったものと評価する。 ○ 外部の専門機関との連携は重要であるが、サポートチームとの関わりはいかにしているのか説明があるとよい。 ○ 校長先生や担任の先生にきめ細かい気遣いをしていただき、親としてとてもありがたいと思っている。 ○ 子育て支援課との連携もすばらしいと思う。 ○ 関係機関との連携が密接に適正に行われていると感じている。 ○ 自己評価が高めであるのは、職員同士の信頼関係が強いことの表れではないかと思う。考察に「サポートチームを編成」とあるが、先生が一人で抱え込まない体制づくりができていっているのではと思われる。 ◇ 昼休みは運動場で子どもたちと遊ぶなど、児童との関係づくりに努力してほしい。
6	OJTの推進	授業公開によるOJTの推進	学校支援訪問や初期研修を通して職員同士が授業を見合い、チーム西小としてのOJTに取り組んでいる。	3.6	<p>3.6 3 4 4 4 3</p> <p>3.6</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ OJTの推進なるものを参観していないので、どのようなものか分からないが、学校の分析考察からすれば効果があったものと評価したい。 ○ 管理職による授業フィードバック、相互参観、模範授業参観、スーパーティーチャーの優れた実践等により大きな刺激を受けたことは、それぞれの教師にとっての大きな財産になったものと高く評価したい。 ○ 教師個人の閉鎖された考えによる授業にならないように、これからもどんどんオープンな取組をしてほしい。 ○ お互いの授業を見合い、よい刺激を受けたり、自信をつけたり、振り返ったりする機会となり、先生方の力の向上につながっていくのだと思う。 ○ 向上心の高い先生が多いので、他の項目より評価が低めなのかなと思われる。生活面の指導にも時間を要する中で、とても努力されておられるのではと思う。 ● それぞれの先生が特色ある授業を行ってほしい。一方、事務的なことに関しては、ある程度統一化を図ってほしい。(赴任期間が長い先生が赴任まもない先生をフォローする等)

7	積極的な情報発信	学校は、「通信」や「ホームページ」などで、分かりやすく情報提供に努めている。	3 5 5 4 5 4.4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「アラカシ」による情報提供は、タイムリーで様々な学校の取り組みが分かり、地域とのつながりを深めることができたと高く評価したい。 ○ 「今日の給食」のコーナーがすごく良いと思った。ぜひ、続けていただきたい。 ○ 予定表に運動場や体育館の使用状況が書いてあり、すごく助かっている。 ○ 学校の様子がよく分かります。多くの保護者や地域住民が情報を得られるようにPRも大切だと思う。 ○ 学校通信は毎号届けてくださり、楽しみにして読んでいる。保護者の方と話す中で、「コラム」が興味深いと好評だった。危機管理についても具体的によく分かった。 ○ 「アラカシ」で学校の様子が分かり、楽しみに読ませてもらっている。 ○ 大変立派な「アラカシ」だった。コラムが楽しかった。 ◇ ホームページを開いて見たいと思っている。 ◇ ホームページ、SNS等、まさに情報発信の時代であるし、SNSで繋がり合う時代である。ただ、この種の問題は、発信側だけでなく、受け手の側での問題でもある。ペーパーレス化が良いとも一概には言えない。 ◇ 学校としての情報発信とその管理体制をしっかり整えて、地域にもアクセスしやすい、読まれるホームページづくりを期待する。
---	----------	--	-------------------------------------	---

6 その他のご意見

- 学校の教育目標具現化のために、児童を中心に据えた教育活動の重点化や具体化を図り、組織としての一体的な指導・実践が行われていると高く評価する。
- 重点目標・計画・実践・評価・新たな目標（PDSAサイクルの確立）の取組体制がしっかりと機能し、その効果を確実に上げていると評価する。特に重点目標振り返り会やカリキュラムマネジメント表の作成、ドリル学習やプリント学習など短時間繰り返し学習など、学校長をはじめ全職員での指導体制は、保護者及び地域にとってはより一層の信頼を深めるものと評価する。
- 今後とも本年度の取組、カリキュラムマネジメント、重点目標振り返り会、サポートチーム体制など建設的な分析を深め、より一層充実した教育活動が展開されることを期待する。
- 児童はもちろんだが、先生方がいきいきとされているように思う。
- ◇ 「盛り上がり欠ける授業参観」との保護者意見もあったが、個人的には普段の学校生活が見られる授業参観の方が良いと思う。担任の先生の授業が見たい。
- 参観日では保護者が子どもたちの頑張っている様子をしっかり見て、ほめてあげてほしい。
- 参観日やPTA等の活動、学校生活についての意見をしっかり受け止めて、説明をきちんとすべきではないかと感じた。
- 学校の自己評価を外部評価委員として読み解くには、情報・評価資料が不足している。
- 学校の自己評価の妥当性・客観性を明らかにする資料の提供が必要である。
- 内容にもよるが、学校行事ではなくスポーツ少年団の行事を優先されている保護者もいる。時代の流れだろうか。

7 学校関係者による補足所見

- 宮崎市教育委員会に聞きたい。学校の経営及び運営・指導等に関する事柄について、「学校関係者評価委員会」に諮ることは、学校にとっては、過度の事務的作業になっているのではないか。その事務的作業にも増して、この一連の取り組みが学校の経営及び運営・指導に生かされているのだろうか。およそ10年間も実施されているが、その検証はされているのだろうか。ぜひ、回答を求めたい。
- 乳・幼児等の虐待が、新聞やテレビ等で報道されるたびに胸の痛む思いをしている一人である。学校等の教育関係施設を通して、大人になること、親になることの教育をぜひ力強く進めてほしいと願うものである。保育園、幼稚園、小・中学校とそれぞれの子どもの発達段階に応じて、親も「人の子の親になる」成人教育の充実を求めたい。

8 学校の考察・今後の取組について

1	重点目標におけるPDCAサイクルの確立	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎月「重点目標振り返り会」を設定し、出力のある授業づくりの取組や児童の変容等について報告し合うことで、日々の指導の成果と課題を整理し、意識して児童の指導にあたり、授業改善につなげたりすることができた。 ○ 表現力の育成の視点から児童の変容（成長）については、教師の観察だけでなく、児童相互の評価活動をカリキュラムマネジメントに位置付けて実践してきた。そのことにより、教師も児童も重点目標に対する意識を高めることにつながった。一方、相互評価活動の集約については、学級担任の負担感が大きいという指摘もあることから、次年度は評価活動のスリム化を図っていきたい。
2	思考力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ カリキュラムマネジメントの表を作成することで、教師も児童も重点目標達成を意識して、教育活動全体を通じた取組を計画的に実践することができた。このような計画的・意図的な取組によって、児童の思考力・表現力の向上につながり少しずつ成果が見られ始めている。次年度も取組を継続・深化させていきたい。
3	基礎的・基本的な内容の定着	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年間51回の朝の学習の時間（15分間）を取り組んできた。内容としては、ドリル学習やプリント学習による基礎的・基本的な内容の定着を図る時間と鼎作成のWeb問題、全学テ対応練習問題、アシストシートなどによる発展的な内容を扱う時間に分けて指導を行った。指導に当たっては、管理職、専科教員も学級に入り、支援にあたってきた。 ○ 放課後こつこつ学習では、地域学習支援ボランティアの支援をいただきながら、1・2・3年生を対象に放課後15分間に学習に継続的に取り組むことができた。（年間27回） ○ 教師の自己評価では、「3.9」という比較的良い結果が出ており、手ごたえを感じている職員が多いようである。プリント等を準備する時間の確保等、課題もあるものの本校の課題である「学力の二極化」に対応するために、このような朝と放課後の時間を有効に活用していくことは極めて重要であり、今後も継続していきたい。 ○ 委員の方から宿題の在り方について意見が出されていることから、学習部を中心に協議し、共通理解・共通実践を図っていきたい。
4	授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ○ カリキュラムマネジメントや重点目標振り返り会などの取組を通して、教師集団が「出力のある授業づくり」、「児童の思考する時間の確保」に意識して取り組むことで、児童の思考力の育成が図られている。参観授業直後のアンケートにおいても、4.1（9月参観日）4.2（11月参観日）と肯定的な評価をいただいております、今後も継続して取り組んでいきたい。
5	生徒指導に関する組織的対応	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師の自己評価で一番高い結果となった。特別な支援を要する児童が多く在籍する本校においては、その課題解決のために生徒指導においてもチームで組織的に対応するとともに外部の専門機関等との連携を図ることが極めて重要である。今年度、サポートチームを編成し、積極的に児童にかかわる体制を整え、児童の支援にあたっていることは、教師集団のスキルアップ、OJTにもつながっている。
6	授業公開によるOJTの推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 管理職による授業フィードバック、学校支援訪問による相互参観及び研究協議、教育実習生や初期研修にかかわる模範授業の公開を通して、教師集団が互いに学ぶ機会を設けることができた。また、スーパーティーチャーを招聘し、その優れた教育実践を見聞きすることで、大いに刺激を受け、日々の授業改善につなげることができた。 ○ 委員の意見の中で事務的な作業内容の統一について指摘があったことから、職員間のコミュニケーションを深めるための時間設定や共通理解の場の工夫を図っていきたい。
7	積極的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年度の保護者の評価が「肯定的なご意見：51%」であり、今年度の課題の一つとなっていたが、今年度は54%であった。更新を輪番制にしたり、給食の写真を毎日更新したりするなど、内容の充実に向けてきたつもりであったが、大きな改善は見られなかった。学校ホームページに載せてほしい情報をPTAとも協議したり、「学級通信」のタイミングのよい発信を心がけたりしながら今後とも積極的な情報提供に努めていきたい。